

2023年3月1日

2022年度ACL研究報告

プロジェクト代表者氏名・所属： 福田大輔 総合文化政策学部教授

研究プロジェクト名称： フランス精神分析の歴史（マリー・ボナパルトもしくはセルジュ・ルクレールについて）

・ACL研究支援を得られたため、2022年9月4日から17日までフランス・パリに滞在することができた。助成金の50万円すべては飛行機代と宿泊費代に使われた。

・当初の研究課題の筆頭に置かれていた、マリー・ボナパルト（1882-1962）については、フランソワ・ミッテラン国立図書館にてアーカイブを閲覧する予定だったが、同図書館の改修工事と図書館長問題のため開館時間が不規則になっており入館がかなわなかった。ただし、フロイトとマリー・ボナパルトの書簡集が2022年11月に出版されることが決まり、実質的には必要な情報はそこで得られることが判明した。これは学部研究費にて購入したので、すでにフランス語で発表した原稿を日本語に翻訳して、この書簡集の内容で補足できる情報を入れて2023年中には出版に漕ぎ着けたい。

・第二の研究主題としてACL助成金申請時には名前をあげていた、セルジュ・ルクレール（1924-1994）については、渡仏した甲斐もあり、その全著作を（古書も含めて）購入することができたが、それを2022年度中にすべて読み込むまでは至らず、学部のゼミの内容として『精神分析すること（Psychanalyser）』を紹介しながら、ノートをとることができただけにとどまった。これは2023年夏までに論文のかたちにまとめたいと思っている。

・申請書には名前をあげていなかったが、2019年度の在外研究前から準備していながら、途中で放棄していたモーリス・ブーヴェ（1911-1960、フランスの精神分析家・精神科医）についての論文を2022年12月末から再び取り上げ、2023年2月末に完成させて、『青山学院大学総合文化政策学』に投稿した。査読審査を通過したので、2023年3月に出版されることになった。この論文を今年度の成果物として提出したい。ブーヴェが提示した女性の強迫神経症の症例報告であるが、ラカンは自らの講義のなかでこの症例を詳細に取り上げており、それを追うことでラカンの基本概念を明らかにすることができると思う。この論文は2023年度の文化演習の参考文献として利用するつもりである。

ボナパルト（仏語刊行済）、ブーヴェ（日本語刊行予定）、ルクレール（未刊・未完）の論稿は、精神分析の歴史についての著作のうちにまとめられる予定である。

福田大輔